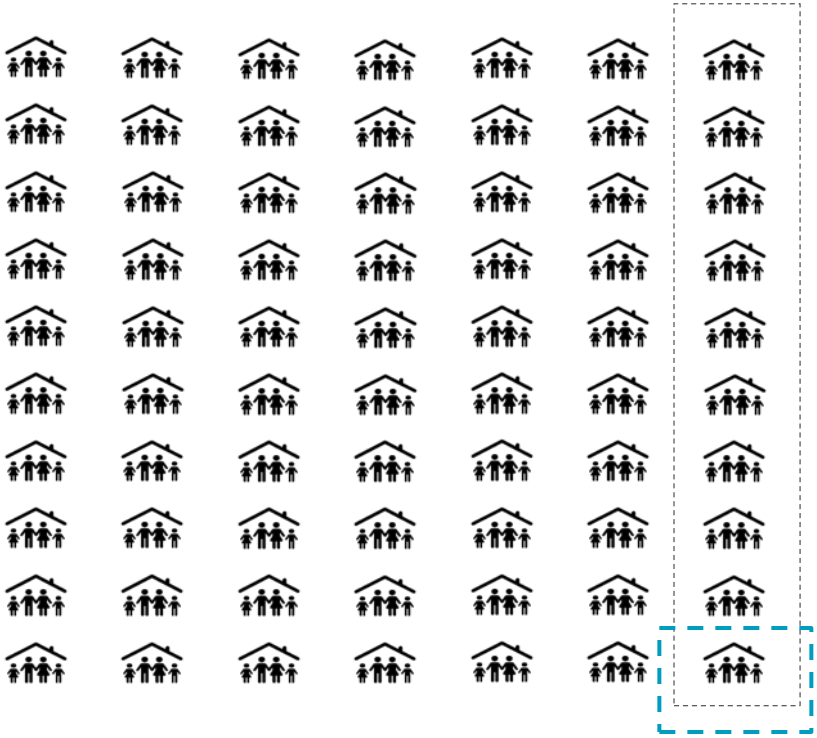
hanataba project
表現を通じた社会的養護の課題解決について

2025年5月

社会的養護下で暮らす子どもたちと、その課題

日本の子どものうち、10～15%は虐待を受けたことがあり、そのうちさらに5%は施設等で暮らしています

日本の未成年者数：約2000万人



200 ~ 300万人は親から虐待を受けた経験あり

- 身体的虐待：殴られる、熱湯をかけられる、など
- 心理的虐待：DVを眼の前で見せられる、など
- ネグレクト：家に帰ってこない、親の養育放棄、など
- 性的虐待：レイプ、性器を触られる、など

特に深刻な１割のケースにおいて、子どもは児童相談所に保護され、その後半分の子どもは児童養護施設や里親家庭で暮らすことに（施設・里親経験者は10～15万人程度）

ソース：子ども家庭庁資料等から推計（年間の虐待相談対応件数は報告されているものの、被虐待児の総数は報告されていない）

社会的養護とは、実家庭の代わりに社会が提供する養育環境のこと。施設と里親がある。

児童養護施設等

- 約3万人の子どもが暮らし、年齢が高めの子どもや、虐待の被害がより子どもが多い
- 施設は全国に約600箇所あり、子どものニーズに応えられるように専門性が高められている

里親家庭

- 約1万人の子どもが暮らし、幼児が多い
- 里親家庭といっても「親」ではなく、子どもは平均5年ほど滞在
- 里親の家で子どもがホームステイのように暮らす

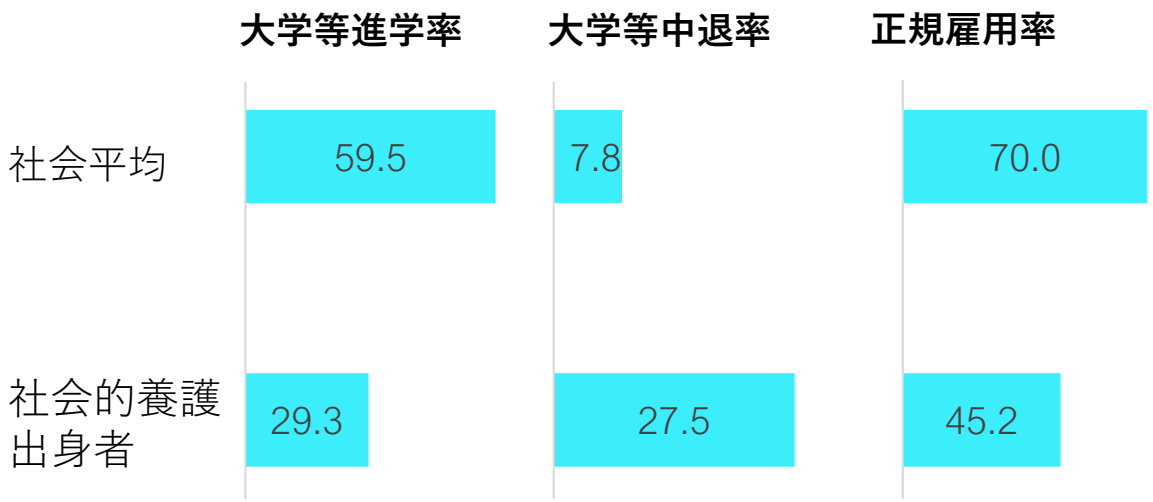
社会的養護出身者向けの奨学金制度等は充実しているが、進学率・退学率等で社会平均との格差は大きいまま

カネ・モノの支援はあるが、

- 社会的養護出身者には、受験料、学費等に関して日本学生支援機構や財団などによる奨学金が充実
- 施設の建物も新しくなり、学習のための設備も揃えられる状況になっている
- 退所後の「居場所」事業なども始まっており、駆け込み寺になるような施設も増えている

社会的養護出身者の進学/退学率に格差が残る

金銭的支援にかかわらず、大学等進学率は3割弱であり、進学しても3割弱が中退しており、正規雇用率も低い。



進学の金銭的支援だけでは、子どもたちの問題は解決していない

ソース：朝日新聞EduA『「卒業まで一学年の10%が大学中退」の現実　防止に取り組む努力必要　専門家の指摘②』、認定NPO法人ブリッジフォースマイル「全国児童養護施設退所者トラッキング調査2023」

環境要因である「気質」が子どもの学力やその後を決めることは近年においてよく知られてきた研究結果である

非認知能力（やり抜く力や自制心などの気質や性格的な特徴）が将来学歴や収入に非常に大きな影響を与える。

そして、そういった気質は環境によって大きく決まってくることが知られている。

参考：中室牧子「学力の経済学」(2015)

気質は環境と偶然の産物であり、社会的養護下の子どもにはそれが十分でない場合が多い

環境と偶然の要因

自分の存在を全肯定してくれる他人の存在
（多くの場合は親）

＋

偶然の成功体験
（努力したら成功した、人に優しくいいことがあった、など）

それらが人の心にもたらす影響

1. 自分を必要とする人のお陰で、自分の生きる意味ができ、生きようという意志ができる
2. 生きる意志があれば、長期的に考えることができる。なので、努力したり、長期的な関係を築くことができる
3. 努力や誠実さが理由で成功体験をすると、その気質がより強化される

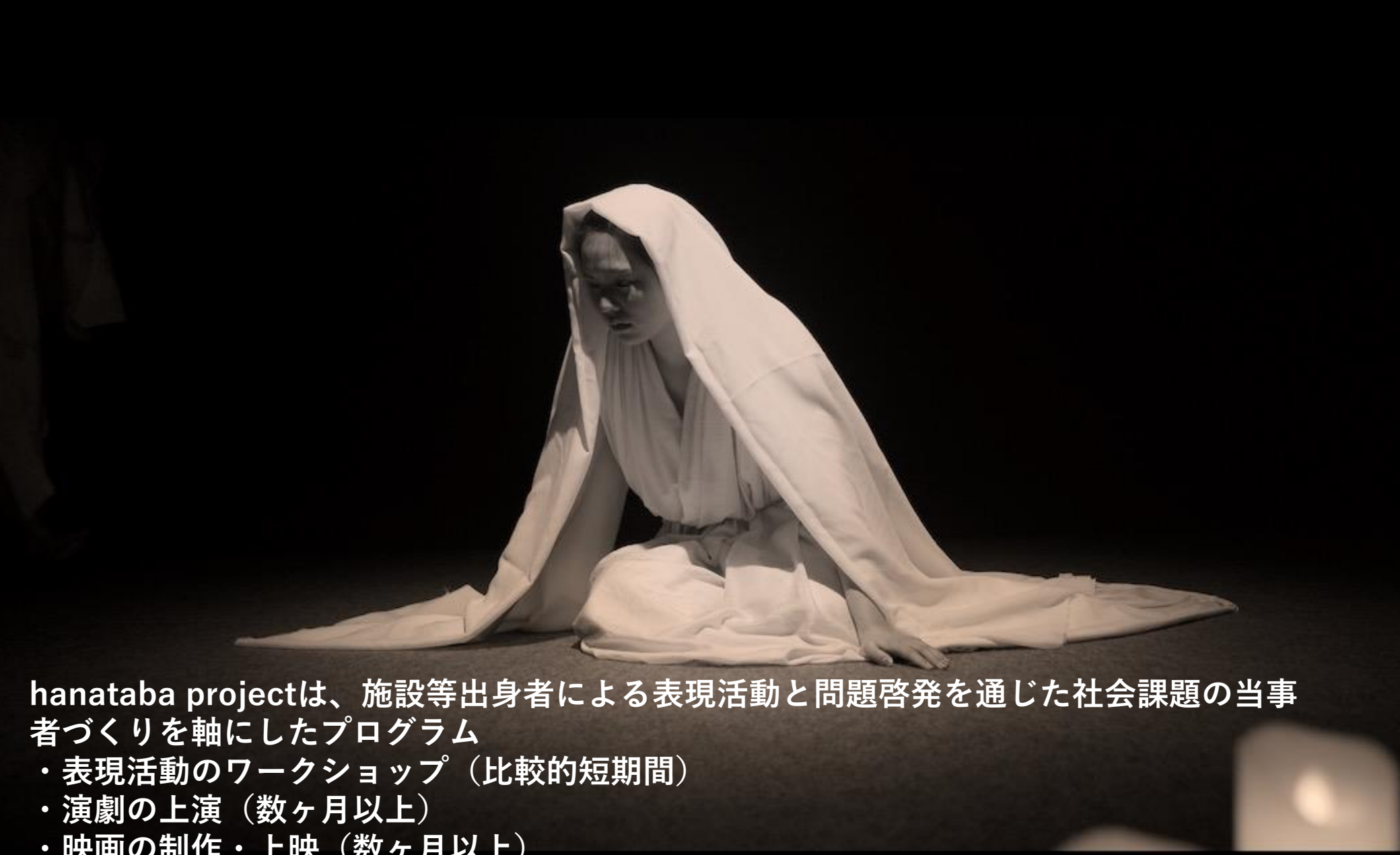
元の環境が望ましくなかった子どもには、
1. 自分の存在を肯定してくれる人間を見つけること
2. 過去に向き合い、自分の経験の意味を再定義すること
3. 成功体験を得ること

の3つが必要。それを省いた金銭的支援の成果は薄い。

hanataba projectの提示する解決案

表現・制作活動を通じた自立支援と

問題啓発を通じた社会課題の当事者づくり



hanataba projectは、施設等出身者による表現活動と問題啓発を通じた社会課題の当事者づくりを軸にしたプログラム

・表現活動のワークショップ（比較的短期間）
・演劇の上演（数ヶ月以上）
・映画の制作・上映（数ヶ月以上）
・イベント・上映会等を通した問題啓発・プロジェクト支援者集め（数ヶ月以上）

第一回作品である「花束」は8人の施設出身者がキャストとなり制作。監督はサヘル・ローズ。

7年の期間をかけ、岩井俊二氏、SUGIZO氏、佐藤浩市氏など、数多くの関係者の協力により制作が完了し、24年9月に上映された。

hanataba projectは一方的な支援プログラムではなく、かつ参加者の心にアプローチする

hanataba projectはこれまでにしてこなかった経験を提供することを通じて、長期間続く心の拠り所をつくることができる

自分に向き合う経験

役を演じることにより感情を吐露し、それによって自分の感情にも向き合う機会を得る

長くつながる仲間ができる

一定期間をかけて類似した境遇にいる人たちと活動を続けることにより、活動終了後もつながることができる仲間ができる

成功体験

演劇や映画の観客から得られる肯定的なフィードバックにより、何かをやり抜いたという体験を得ることができる。

就労へのステップ

活動を通じてお金を稼ぐことを理解し、就職に必要な大人とのつながりが得られる

参加者と観客の声

「この映画のためにも、死ねないなと思った」

「演技として自分の感情を爆発させることを通じて、自分自身の感情についても制御できるようになった」

「初めて自分と向き合えた」

「自分を俯瞰して初めて気がついた、自分は頑張って生き残れたんだと。認めてあげたいもっと、自分自身を」

「この映画が自分の帰る居場所のように感じる」

「俳優をこの映画通して目指したいと思った」

出演したキャストの声

大変、「胸を打つ」作品でした。ただのドキュメンタリーにせず、彼らに「表現する」ことを求めたのも、素敵なことでした。

「胸を打つ」と書きましたが、「胸に来る」という感じでした。

いつしか、見入ってました。あ、いつしかというのも違うな。最初の青年の言葉をきいた時から、すっと入り込んだ感じでした。彼らの言葉が、心からの言葉だったからなのでしょう、そして、編集で切り取ったり飾られたり、押しつけがましくされたり、そういった「加工」がなく、「素材」のままを見ることができました。だから、彼らが「生きるのは大変だったし、今も大変なんだけど、生きよう」と、いつの間にか、こちらに語りかけている、そんな風に見えました。

演出家　野田秀樹

hanataba projectの活動メンバー

hanataba projectは「子どもの貧困に、本質的解決を。」をミッションとして、子どもたちの支援を行う認定NPO法人Learning for Allが、俳優・映画監督のサヘル・ローズ、映像作家の岩井俊二と共に立ち上げています。Learning for All は本プロジェクトの事務局を務めます。

サヘル・ローズ

1985年イラン生まれ。７歳までイランの孤児院で過ごし、8歳で養母とともに来日。イタリア・ミラノ国際映画祭をはじめとするさまざまな映画祭で最優秀主演女優賞を受賞。

第9回若者力大賞を受賞。芸能活動以外にも、国際人権NGOの「すべての子どもに家庭を」の活動で親善大使を務めた経験もあり、公私に渡る支援活動が評価され、2020年にはアメリカで人権活動家賞を受賞する。国内外の児童養護施設に15年以上通い続けている。

岩井俊二

1963年1月24日生まれ、宮城県出身。88年よりドラマやミュージックビデオ等、多方面の映像世界で活動を続け、その独特な映像は“岩井美学”と称され注目を浴びる。95年『Love Letter』で長編映画監督デビュー。

代表作は『スワロウテイル』『リリイ・シュシュのすべて』等。23年10月、最新作『キリエのうた』を公開。国内外を問わず、多彩なジャンルでボーダーレスに活動し続けている。

子どもの貧困に、本質的解決を。
Learning for All

認定特定非営利活動法人Learning for All（https://learningforall.or.jp/）

2010年活動開始、14年法人設立。「子どもの貧困に、本質的な解決を。」をミッションに、居場所運営や学習支援などを通じ、のべ19,000人以上の子どもたちを支援。「地域協働型子ども包括支援」というマルチセクターでの支援モデルの構築および展開や、「社会的養育地域支援ネットワーク」の事務局など、自団体に閉じない活動も展開。

今後の活動予定と必要調達資金_1/3

合計必要調達金額：約1,200万円

	内容	時期（予定）	必要調達資金
hanataba project キックオフイベント	・上映会・トーク・音楽ライブの実施 ・プロジェクト開始の周知・支援者の募集	2025年8月	調達済
児童養護施設での無料上映会（2回）	施設職員、子ども支援関係者との課題共有	2025年9月以降 (①都内②地方の2回を想定)	調達済
課題啓発イベント（2ヶ月に1回程度）	著名人を交えた課題啓発トークイベント（都内）	2025年9月以降	調達済

今後の活動予定と必要調達資金_2/3

	内容	時期（予定）	必要調達資金
地方での無料上映会（3回程度）	地方部での課題啓発	2025年10月 ~2026年10月	72万円
当事者支援	・hanataba projectにおける当事者雇用 ・Learning for All 活動拠点の運営費	2025年10月 ~2026年10月	200万円
花束Fes	・映画・音楽・アートを含めたフェス形式のイベント ・一般への問題啓発、支援者の熱量を高める。	2025年10月 ~2026年10月	450万円

今後の活動予定と必要調達資金_3/3

	内容	時期（予定）	必要調達資金
演劇	・当事者の自己表現 ・舞台演劇の練習・上演	企画中	n/a
ワークショップ	・当事者の自己表現 ・絵を描く・対話	企画中	n/a
事務局活動費	プロジェクト管理、資金調達、経理、広報等	2025年10月 ~2026年10月	440万円 （~25年9月分までは調達済）

はじめまして。

「花束」を見つけてくださり、出会ってくださり、本当にありがとうございます。多くの方々の支えのおかげで、構想から7年の年月を経て、2024年２月に「花束」は完成しました。

ですが、ここからが「始まり」なんだと痛感しています。映画は完成して終わりではないのです。

この作品に込めた今後の発展、構想をお手紙にいたしました。この思いがアナタへ伝わりますように。

「花束」を日本中の児童養護施設や施設職員さんに向けて
無料上映会を開催したいと考えております。また、「花束」の自主上映を日本各地で開催。その際には現場等で運営やお手伝いをしてくれる方々をはじめ、「花束」の制作過程を編集してくれる方、SNS周りなど、「花束」の運営に当事者を雇用したいと考えております。

その仕組みを花束プロジェクトで作り上げたい。その思いを込めて「プロジェクト」と名付けております。ですが、その仕組みを成立させるためには、皆様のお力添えが必要となります。

クラウドファンディングを選択しない理由もご説明させてください。理由はただ一つです。万が一の場合、ネガティブに捉える方もおり、残念ながら「当事者」を攻撃する人も少なくありません。また「可哀想」だから支援されてると、彼等に思われたくないのです。映画が上映され、そこで得た資金を通して、私たちは「当事者」を雇用していきたいのです。

映画「花束」としてだけではなく「花束」を通して、貧困家庭や施設を退所した人、ひとり親などへの支援に繋がる新しい支援の輪になることを願っています。

「花束」の言葉通りに「孤独」や「孤立」している「子ども」も「大人」にも帰って来られる居場所づくりであってほしい、という思いを込めて、応援ソングを当事者であるSAKIさんに歌っていただきました。

このように当事者に様々な表現、活動の機会を今後も与えていきたいのです。朗読やワークショップ、演劇など様々な角度から、「表現」を通して「心」のメンタルケアをしてゆきたいのです。

私たちの「映画を支援をしてください」ということではなく、「映画」を通して上記でのべました、様々な支援を拡大することを目指しております。

未来を担う彼等は弱者ではないのです。人権を持った一人の人間として人間への投資だと私は思っております。あなたがこの「花束の一輪」になっていただけたら、これほど幸せな事はありません。

花束のキャストは皆、美しい心の持ち主です。その彼等が望むのは世界の平和、全ての人が笑顔で愛が溢れる世界でありますように。

読んでくださって、出会ってくださったこと、花束を代表してお礼を申し上げます。

サヘル・ローズより

ご寄付・協賛のお願い

「hanataba project」は、日本中での映画「花束」の上映を通じて、社会問題の啓発と当事者支援を行います。
この活動を支えてくれるパートナーを募集しています。
あなたがこの「花束の一輪」になっていただけたらこれほど幸せな事はありません。

ご寄付方法

クレジットカードでのご寄付

口座振込でのご寄付

※フォームにご記入いただいたご連絡先に、振込先口座のご案内メールをお送りいたします。

ご寄付・協賛に関するお問い合わせ

「ご寄付または協賛に関するお問い合わせは、以下よりお願いいたします。

お問い合わせ

hanatabapj_contact@learningforall.or.jp